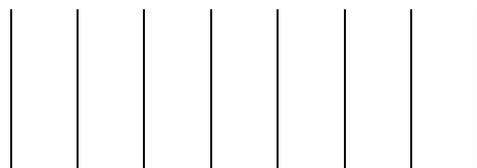


概

要



位 置 と 概 要



当消防本部は、茨城県の南東部、千葉県に接する位置にあり、首都東京から 70~90 k m 圏、県都水戸市から 15~50 k m 圏内にあつて、太平洋に面する鉾田市、霞ヶ浦と北浦に挟まれた潮来市及び行方市を管内としており、面積は 501.48 k m²で、現在この管内を 1 本部 3 署 4 出張所で管轄している。

地勢は概ね平坦で、標高は 30~40m 程度であり、台地には畑地が広がり霞ヶ浦、北浦の沿岸には水田が広がる純農村地帯である。

また、管内には「鉾田海水浴場」をはじめとする多くの海水浴場と、「あやめ」で有名な水郷潮来があり、美しい自然環境に恵まれた気候温暖な地域である。



消防本部・鉾田消防署



玉造出張所



行方消防署



麻生出張所



〔消防本部の位置〕

東経 140° 31' 54"

北緯 36° 9' 54"



旭出張所



大洋出張所



潮来消防署

ほこ 銚 田 市



朝日が昇る様子をモチーフに、人と豊かな自然環境の調和を図り、街が大きく発展していく様子を表し、波型は「人と自然の調和」を表現しています。

役所所在地 〒311-1592 銚田市銚田1444番地1

☎0291-33-2111 FAX0291-32-4443

《沿革》

平成17年10月11日 合併・市制施行
銚田町・旭村・大洋村

《基本構想のテーマ・理念等》

『「いのち」と「暮らし」の先進都市』

《市の花・木・鳥》

花：ヒマワリ 木：サクラ
鳥：ウグイス

《特産物》

メロン・さつまいも・いちご・みず菜・
ごぼう・トマト

《観光地・史跡等》

鹿島灘海浜公園
巖島神社（子生弁財天）
大蔵山福泉寺（釈迦如来立像）
無量寿寺
みのわ水鳥公園



《鹿島灘海浜公園》

鹿島灘海浜公園は、太平洋に面した県営公園で全長約1キロメートルのウォークデッキが設置されており、歩きながら雄大な海を眺めることができます。

また、銚田市名産のメロン等を販売する農産物直売所「もぎたて市場」やレストラン「海乃風」が設けられ、観光客でにぎわっています。

《地勢・風土等》

銚田市は、首都東京から約90kmの茨城県東南部に位置し、北浦と涸沼に接しており、水と緑に囲まれ豊かな自然の恵みを受けている。北は茨城町、大洗町、南は鹿嶋市、東は鹿島灘、西は行方市、小美玉市に接し、その内陸部のほとんどは平坦地となっている。この平坦な地形と2つの湖沼に流入する河川に沿って水田や湿地帯が広がっており、台地部は農産物を生産するのに適した肥沃な農業用地となっている。

基幹産業は温暖な気候を活かした農業であり、首都圏全体の食料供給を担う地域として、主に施設園芸作物を中心に栽培しており、メロンやいちご、トマト、さつまいもは全国有数の生産地としても知られている。

構成市の紹介

なめ がた し
行 方 市



行方市の「N」と帆引き船の帆をモチーフとした市章です。

3つの帆は、麻生町・北浦町・玉造町を表しています。それぞれの色は、赤『降りそそぐ太陽』、青『霞ヶ浦・北浦』、黄緑『豊かな自然』をイメージしています。行方市の発展と飛躍を表現しています。

役所所在地 〒311-3832 行方市麻生1561-9
☎0299-72-0811 FAX0299-72-2174

《沿革》

平成17年9月2日 合併・市制施行
麻生町・北浦町・玉造町

《特産物》

- ・さつまいも(茨城県銘産地指定)
令和5年「行方かんしょ」が地理的表示(GI)保護制度に登録された
- ・エシャレット(茨城県銘産地指定)
- ・いちご(茨城県銘産地指定)
- ・みず菜(茨城県銘産地指定)
- ・わさび菜(茨城県銘産地指定)
- ・セリ(茨城県銘産地指定)
- ・春菊(茨城県銘産地指定)
- ・シャンサイ(茨城県銘産地指定)
- ・豚肉、つくだ煮、れんこん 等

《観光地・史跡等》

- ・大日塚古墳の埴輪「猿」(国指定重要文化財)
- ・西蓮寺仁王門(国指定重要文化財)
- ・麻生藩家老屋敷記念館(県指定有形文化財)
- ・大山守大場家郷土屋敷(県指定有形文化財)
- ・観音寺如意輪観音坐像(県指定有形文化財)
- ・萬福寺阿弥陀堂、仁王門(県指定有形文化財)等

《伝統芸能》

- ・八坂神社の馬出し祭り
- ・どぶろく祭(青沼春日神社)
- ・西蓮寺 常行三昧会
- ・大麻神社祭礼
- ・化蘇沼稻荷神社夏祭り
- ・山田祇園祭り 等



霞ヶ浦の秋の風物詩ともいえる帆引き船。優雅に霞ヶ浦に浮かぶその姿は、毎年多くの方々を魅了しています。この美しい姿を見ようと、県内はもとより県外からも多くの方が訪れます。

《地勢・風土等》

茨城県の東南部に位置し、東京都心から約70km、県都水戸市から約40kmの距離にあります。面積は222.48㎦で、東西約12km、南北約24kmの形状となっており、北は鉾田市と小美玉市、南は潮来市に隣接し、東は北浦、西は霞ヶ浦(西浦)に面しています。内陸部は標高30m前後の行方大地により形成されており、霞ヶ浦沿岸部は概ねなだらかで連続的な稜線であるのに対し、北浦沿岸部は比較的起伏に富んでいます。

倭武天皇が、神輿で現原の岡においてになり、御膳を召し上がり、辺りを散策して美しい景観に心惹かれ、「行細国(なみくはしくに)」と仰せになったことから、「行方」の地名の起こりとされています。

いたこし
潮来市



丸は円満・充足そして絶えずやすみなく向上するサイクルを表わし、中央に水郷のシンボルである水の流れて恒久の繁栄を願望し、全体として「いたこ」の「い」を図案化したものです。

役所所在地 〒311-2493 潮来市辻626
☎0299-63-1111 FAX0299-80-1100

《沿革》

平成13年4月1日 合併・市制施行
潮来町・牛堀町

《基本構想のテーマ・理念等》

暮らしを愉しみ市民が活躍する「水の郷」

《市の花・木・鳥》

花：あやめ 木：ポプラ 鳥：よしきり

《特産物》

潮来あやめちゃん（特別栽培米）・一番星（特別栽培米）・フォー（米粉麺）・まこも・地酒・米菓等・てっぼう漬け

《観光地・史跡等》

水郷潮来あやめ園・茨城県水郷県民の森・権現山公園・二本松寺（あじさいの杜）・稲荷山公園・長勝寺・潮音寺・水郷北斎公園・道の駅いたこ・水郷トンボ公園・酒蔵・水郷旧家磯山邸・津軽河岸あと広場・白鳥の里・大生神社・鹿見塚古墳・島崎城址



《嫁入り舟》

この地域は、水路によって形成された生活形態であったことから、嫁入りする際の花嫁や嫁入り道具を運搬するときのサッパ舟が使われており、これが「嫁入り舟」のはじまりだとされています。5月中旬から6月中旬に開催される水郷潮来あやめまつりでは、メインイベントとして、「嫁入り舟」が執り行われます。沢山の方々に祝福されながら、あやめが咲き誇る園内を花嫁・花婿二人揃って歩いていくその姿は、観光客を魅了させるほどの美しさです。

《地勢・風土等》

潮来市は、茨城県南東部に位置し、北側は行方市、南側は神栖市、東側は鹿嶋市、西側は千葉県香取市に隣接している。

面積は71.40㎏で、北部には行方台地が南北に続き、東部は北浦、西部は霞ヶ浦と常陸利根川、南部は外浪逆浦というように水辺に囲まれた自然豊かな地域である。

江戸時代には水運の拠点として繁栄し、文人墨客が訪れるなど多くの人たちの盛んな交流の中で独自の歴史や文化を育んできた。また、豊かな自然を背景に水郷筑波国定公園の一部として指定され、観光地として全国的にも知られている。

このような中で、長い歴史と文化を有し、豊かな水辺などの自然に囲まれて生れた潮来市では、教育・文化や医療・福祉、子育て支援等の充実、まちの賑わい創出、地域経済の活性化を図り、子どもから高齢者まで、誰もが健康で安心して暮らすことができる「住みたいまち潮来」の実現に向け、市民対話を基本において、市民の皆様と一緒に、活気のあるまちづくりに取り組んでまいります。

人 口 ・ 世 帯 数 及 び 面 積

(令和7年4月1日現在)

区 分		人 口 (人)			世 帯 数 (世帯)	面 積 (k m ²)
		合 計	男	女		
鉾田消防署	鉾 田 市	46,303	24,165	22,138	22,021	207.60
潮来消防署	潮 来 市	25,909	12,920	12,989	11,609	71.40
行方消防署	行 方 市	31,283	15,870	15,413	13,166	222.48
総 合 計		103,495	52,955	50,540	46,796	501.48

最 近 5 年 間 の 広 域 圏 内 の 推 移

(各年4月1日現在)

区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
人 口	110,531	109,107	106,831	106,039	104,957
世 帯 数	44,984	45,347	44,781	45,764	46,478

鹿 行 消 防 力 一 覧 表

消 防 本 部 の 現 有 勢 力

(令和7年4月1日現在)

区 分	消 防 本 部	消 防 署	出 張 所	職 員 数	ポ ン 槽 付 自 動 消 防 車	ポ ン 槽 学 習 自 動 消 防 車	自 消 防 動 車	救 助 工 作 車	水 槽 車	救 急 車	指 揮 車	広 報 車	連 絡 車	資 機 材 搬 送 車	救 助 艇	救 命 ボ ー ト	水 上 オ ー ト バ イ	ボ ー ト ト レ ー ラー
合 計	1	3	4	219	6	1	6	1	1	10	4	7	9	1	1	1	1	1
消 防 本 部	1			41							1		7					
鉾 田 消 防 署		1		44	1		2		1	2	1	1						1
旭 出 張 所			1	12	1					1		1						
大 洋 出 張 所			1	12	1					1		1						
潮 来 消 防 署		1		43	1		2			2	1	1	1		1			
行 方 消 防 署		1		43	1		2	1		2	1	1	1	1		1		
麻 生 出 張 所			1	12	1					1		1						
玉 造 出 張 所			1	12		1				1		1						

※救急車の合計は予備車を含む。

消 防 団 の 現 有 勢 力

(令和7年4月1日現在)

区 分	消 防 団	消 防 分 団	消 防 団 員	ポ ン 槽 付 自 動 消 防 車	自 消 防 動 車	積 載 小 型 動 力 ポ ン プ 車	消 防 広 報 車
合 計	3	110	2,625	15	27	148	8
潮 来 市	1	13	533	5	12	17	1
行 方 市	1	14	1,032	6	7	56	3
鉾 田 市	1	83	1,060	4	8	75	4

鹿 行 広 域 消 防 の あ ゆ み

昭和47年	4月	鹿行地方広域市町村圏事務組合発足する。
	12月	鹿行非常備8か町村において山梨県の組合消防を視察
昭和48年	1月	管理者会において組合消防実施を決定する。
昭和49年	6月	常設消防研究部会発足する。
昭和50年	2月	消防本部・消防署開設準備室発足する。
	3月	地方自治法第284条による一部事務組合解散する。
	4月	地方自治法第285条による複合事務組合発足する。
	4月	鹿島郡北部3か町村（旭村・銚田町・大洋村）、行方郡5か町村（麻生町・牛堀町・潮来町・北浦村・玉造町）をもって消防本部、消防署発足する。 （職員定数142名・実員79名） 初代消防長（事務取扱）に管理者 飯島 久就任する。
	4月	銚田町中央公民館内に本部事務所を仮設し、消防事務を開始する。
	4月	職員1名退職
	5月	各消防署の事務所を下記に仮設し、消防事業を開始する。 鹿島北部消防署（銚田町中央公民館内） 行方南部消防署（旧潮来食糧事務所内） 行方北部消防署（麻生町公民館内）
	5月	初代消防本部次長に永峯剛次就任する。
	6月	職員1名採用
	6月	消防本部・消防署に車両配備する。 消 防 本 部 指令車 1 台 鹿島北部消防署 指令車 1 台 救急車 2 台 行方南部消防署 指令車 1 台 救急車 1 台 行方北部消防署 指令車 1 台 救急車 1 台
	6月	社団法人日本船舶振興会から救急車1台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	7月	各消防署に119専用電話を架設し、救急業務を開始する。
	7月	職員2名採用
	9月	水槽付消防ポンプ自動車3台を購入し、各消防署に配置する。
	10月	各消防署災害活動事業を開始する。
	10月	小型動力消防ポンプ3台を購入し、各水槽付消防ポンプ自動車に積載する。
	11月	消防本部・消防署新庁舎起工式を合同で行う。
	12月	無線局開局（基地局3，移動局11）
昭和51年	4月	職員9名採用

	4月	消防本部, 鹿島北部消防署銚田町中央公民館から仮庁舎(銚田町役場敷地内)へ移転する。
	5月	職員1名採用
	5月	行方北部消防署新庁舎へ移転する。
	5月	消防本部, 鹿島北部消防署新庁舎へ移転する。
	6月	組織の整備により消防本部課制施行
	6月	職員48名採用
	6月	職員1名採用
	6月	広報車1台を購入し, 消防本部に配置する。
	7月	職員1名採用
	8月	新庁舎の合同落成式を行う。
	9月	行方南部消防署新庁舎へ移転する。
	9月	初代消防長(事務取扱)管理者 飯島 久退任する。
	9月	第2代消防長(事務取扱)管理者 井川 茂芳就任する。
	10月	職員1名採用
	11月	消防ポンプ自動車3台を購入し, 各消防署に配置する。
昭和52年	3月	職員3名退職
	5月	第2代消防本部次長 飯島 勝寿就任する。
	6月	広報車3台を購入し, 各消防署に配置する。
昭和53年	1月	第1回鹿行広域消防本部出初式を挙げる。
	3月	社団法人日本自動車工業会から救急車1台が寄贈され, 行方北部消防署に配置する。
	4月	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台が寄贈され, 行方南部消防署に配置する。
	6月	職員1名退職
	6月	職員1名採用
	10月	鹿行地方広域市町村圏事務組合消防本部特別救助隊発足する。
	12月	消防ポンプ自動車3台を購入し, 各消防署に配置する。
昭和54年	2月	第2代消防長(事務取扱)管理者 井川 茂芳退任する。
	2月	第3代消防長 飯島 勝寿就任する。
	3月	鹿島北部消防署, 行方北部消防署の第2車庫を建設する。
	8月	第3代消防本部次長 高品 喜代志就任する。
	9月	職員2名採用
	11月	指揮車1台を購入し, 消防本部に配置する。
昭和55年	6月	救急自動車1台を更新し, 鹿島北部消防署に配置する。
昭和57年	6月	第3代消防長 飯島 勝寿退職する。
	6月	第4代消防長(事務取扱)管理者 塙 晟就任する。
昭和58年	3月	職員1名退職
	5月	第4代消防長(事務取扱)管理者 塙 晟退任する。

	6月	第5代消防長 白井 叶就任する。
	6月	広報車1台更新, 消防本部に配置する。
	12月	救急自動車1台を更新し, 行方南部消防署に配置する。
	12月	職員2名退職
昭和59年	3月	社団法人日本損害保険協会から救急車1台が寄贈され, 行方北部消防署に配置する。
	4月	職員4名採用
	4月	職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	4月	4週5休制度実施される。
	4月	茨城県防災行政無線電話稼働
	5月	消防規程集を発行する。
昭和60年	2月	指令車1台を更新し, 鹿島北部消防署に配置する。
	3月	社団法人日本損害保険協会から救急車1台が寄贈され, 鹿島北部消防署に配置する。
	3月	第3代消防本部次長 高品 喜代志退職する。
	5月	指令車1台を更新し, 行方北部消防署に配置する。
昭和61年	1月	指令車2台を更新し, 消防本部, 行方南部消防署に配置する。
	1月	職員1名退職
	3月	救急自動車1台を更新し, 行方南部消防署に配置する。
	4月	職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	6月	広報車3台を更新し, 鹿島北部消防署, 行方南部消防署, 行方北部消防署に配置する。
	8月	社団法人日本損害保険協会との共催により防災講演会を実施する。
昭和62年	3月	第5代消防長 白井 叶退職する。
	4月	第6代消防長 高野 登就任する。
	4月	第4代消防本部次長 小林 廣就任する。
	8月	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台が寄贈され, 行方南部消防署に配置する。
	9月	昭和50年に行方北部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を牛堀町に払い下げる。
	9月	救急講演会を開催する。
	10月	第3回全国婦人消防操法大会(横浜市)に北浦村長野江婦人防火クラブが出場する。
	11月	東関東自動車道潮来佐原インター区間の救急業務を開始する。
昭和63年	2月	救急自動車1台を更新し, 行方北部消防署に配置する。
	3月	化学消防ポンプ自動車1台を購入し, 鹿島北部消防署に配置する。
	3月	4週6休制試行される。
	3月	第4代消防本部次長 小林 廣退職する。
	4月	職員定数146名となる。

	4月	職員8名採用
	4月	第5代消防本部次長 野島 清司就任する。
	4月	職員1名鹿行広域事務局へ出向 職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向 職員1名鹿行広域事務局から転入
	7月	昭和50年に鹿島北部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を旭村に払い下げる。
	9月	救急講演会を開催する。
平成 元年	3月	社団法人日本自動車工業会から救急自動車1台が寄贈され、鹿島北部消防署に配置する。
平成 2年	2月	職員1名退職
	3月	化学消防自動車1台を購入し、行方北部消防署に配置する。
	4月	職員1名鹿行広域事務局へ出向 職員1名鹿行広域事務局から転入
	4月	第2・第4土曜閉庁制度実施される。
	4月	消防本部及び消防署の組織の一部を改正する。
	5月	水難救助用救命ボート1艇を購入し、行方北部消防署に配置する。
	6月	昭和50年に行方南部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を潮来町に払い下げる。
	8月	「第5回茨城県幼年少年婦人防火大会」鉾田町総合公園体育館で開催される。
平成 3年	1月	職員1名退職
	3月	消防ポンプ自動車1台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	3月	職員1名退職
	3月	第6代消防長 高野 登退職する。
	4月	第7代消防長 土子 貞男就任する。(鹿行広域事務局から転入)
	4月	第5代消防本部次長 野島 清司鹿行広域事務局へ出向
	4月	第6代消防本部次長 岡崎 一郎就任する。
	4月	消防署の組織の一部を改正する。
	4月	職員4名採用
	4月	初代消防本部次長永峯剛次勲五等瑞宝章を受章する。
	5月	水難救助艇1艇を購入し、行方南部消防署に配置する。
	6月	財団法人日本防火協会から防火広報車1台が寄贈され、消防本部に配置する。
	11月	指揮車1台を更新し、消防本部に配置する。
	12月	ひとり暮らし老人等緊急通報システム稼動
平成 4年	3月	消防ポンプ自動車1台を更新し、行方北部消防署に配置する。
	3月	第6代消防本部次長 岡崎 一郎退職する。
	4月	職員2名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向

平成 5年	4月	職員4名採用	
	7月	鹿島北部消防署救助隊, 第21回消防救助技術関東地区指導会(会場千葉市)へ出場	
	9月	資機材運搬車1台を購入し, 行方北部消防署に配置する。	
	12月	土曜閉庁制度実施される。	
	12月	隔日勤務者の週42時間勤務態勢実施する。	
	12月	救急自動車心電図伝送システム稼動(救急車3台)	
	3月	消防ポンプ自動車1台を更新し, 行方北部消防署と行方南部消防署に配置する。	
	4月	職員定員150名となる。	
	4月	職員4名採用	
	4月	昭和59年に行方北部消防署に配置した救急自動車1台を麻生町ライオンズクラブに寄贈する。	
平成 6年	7月	鹿島北部消防署救助隊, 第22回消防救助技術関東地区指導会(会場横浜市)へ出場	
	11月	広報車1台を更新し, 消防本部に配置する。	
	3月	救急自動車1台を更新し, 行方南部消防署に配置する	
	3月	消防ポンプ自動車1台を更新し, 行方北部消防署に配置する。	
	3月	消防無線基地局更新(鹿島北部消防署)	
	4月	隔日勤務者の週40時間勤務態勢実施する。	
	4月	救急救命士誕生	
	7月	鹿島北部消防署救助隊, 第23回消防救助技術関東地区指導会(会場大宮市)へ出場(入賞)	
	1月	防災航空隊派遣職員研修開始	
	2月	消防無線基地局更新(行方南部消防署)	
平成 7年	3月	高規格救急自動車1台を購入し, 鹿島北部消防署に配置する。	
	4月	防災航空隊へ職員1名派遣	
	7月	第4回全国消防長会組合消防委員会関東支部委員会を開催する。	
	7月	救急自動車1台を更新し, 鹿島北部消防署に配置する。	
	7月	鹿島北部消防署救助隊及び行方北部消防署救助隊, 第24回消防救助技術関東地区指導会(会場厚木市)へ出場(入賞)	
	11月	救急救命士誕生(計2名となる)	
	平成 8年	3月	消防無線基地局更新(行方北部消防署)
		3月	消防ポンプ自動車1台を更新し, 鹿島北部消防署に配置する。
		4月	第7代消防長 土子 貞男鹿行広域事務局へ出向
		4月	第8代消防長 野島 清司就任する。(鹿行広域事務局から転入)
4月		職員1名霞ヶ浦聖苑へ出向	
4月		職員1名退職	
5月		元鹿島北部消防署長 島田 福壽勲五等瑞宝章を受章する。	

	6月	広報車3台を更新し、各署へ配置する。
	7月	行方北部消防署救助隊, 第25回消防救助技術関東地区指導会(会場東京都)へ出場(入賞)
	11月	指令車1台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	11月	救急救命士誕生(計3名となる。)
	12月	職員1名退職
平成9年	3月	職員1名退職
	3月	第8代消防長 野島 清司退職する。
	4月	第9代消防長 茂木 英雄就任する。
	4月	職員定数154名となる。
	4月	職員8名採用
	6月	行方南部消防署空調設備更新
	7月	職員1名採用
	8月	社団法人日本損害保険協会から水槽付ポンプ自動車1台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	9月	職員1名退職
	9月	消防出張所整備計画決定(管理者会)
	10月	行方北部消防署庁舎屋上防水工事実施
	12月	指令車3台を更新し、消防本部、行方南部消防署及び行方北部消防署に配置する。
平成10年	3月	防災航空隊職員派遣終了
	4月	職員定数186名となる。
	4月	救急救命士誕生(計4名となる。)
	6月	鹿島北部消防署空調設備更新
	10月	携帯電話等からの119番通報受付開始
平成11年	3月	社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車1台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	4月	職員8名採用
	4月	救急救命士誕生(計5名となる。)
	6月	職員1名退職
	9月	安全研修会開催
平成12年	2月	第23回全国消防職員意見発表茨城県大会開催(北浦町)
	3月	化学消防ポンプ自動車1台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、行方南部消防署に配置する。
	3月	鹿島北部消防署大洋出張所竣工
	4月	鹿島北部消防署大洋出張所業務開始
	4月	職員9名採用
	4月	救急救命士誕生(計6名となる。)
	5月	行方北部消防署庁舎外壁塗装工事実施

	6月	職員1名退職
	7月	鹿島北部消防署救助隊第29回消防救助技術関東地区指導会(会場戸田市)へ出場
平成13年	10月	広報車1台を購入し、鹿島北部消防署大洋出張所へ配置する。
	2月	防災航空隊へ職員1名派遣
	3月	高規格救急車1台を購入し、行方北部消防署へ配置する。
	3月	行方北部消防署玉造出張所竣工
	3月	職員1名退職
	4月	行方北部消防署玉造出張所業務開始
	4月	第7代消防本部次長 塚本 義美就任する。
	4月	職員10名採用
	4月	職員1名霞ヶ浦聖苑へ出向
	4月	牛堀町と潮来町が合併し、潮来市となる。これによって、構成市町村は、1市4町2村となる。
	4月	救急救命士誕生(計7名となる。)
	5月	広報車1台を購入し、行方北部消防署玉造出張所へ配置する。
	6月	行方北部消防署空調設備更新
	10月	救急救命士誕生(計8名となる。)
平成14年	12月	職員1名退職
	1月	潮来市在住の岩本氏より広報車1台が寄贈される。
	1月	消防本部・鹿島北部消防署屋上防水工事実施
	2月	救急自動車1台を更新し、行方北部消防署玉造出張所に配置する。
	2月	広報車1台を購入し、鹿島北部消防署旭出張所へ配置する。
	2月	鹿島北部消防署旭出張所竣工
	3月	消防本部・鹿島北部消防署庁舎防水工事実施
	3月	職員1名退職
	4月	鹿島北部消防署旭出張所業務開始
	4月	職員11名採用
	6月	ワールドカップサッカー大会開催に伴う消防警戒実施
	7月	消防緊急通信指令室整備計画着手
	7月	鹿島北部消防署・行方北部消防署救助隊第31回消防救助技術関東地区指導会(会場千葉市)へ出場
	12月	化学消防ポンプ自動車1台を更新し、行方北部消防署玉造出張所へ配置する。
平成15年	2月	救急自動車1台を更新し、鹿島北部消防署大洋出張所へ配置する。
	2月	広報車1台を購入し、行方北部消防署麻生出張所へ配置する。
	2月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部 太田 衛消防士長最優秀賞受賞。茨城県代表となる。
	2月	行方北部消防署麻生出張所竣工

	3月	第7代消防本部次長 塚本 義美退職する。
	3月	職員2名退職
	3月	職員1名介護審査会事務所へ出向
	4月	職員定数204名となる。
	4月	行方北部消防署麻生出張所業務開始
	4月	消防本部・消防署に救急係を設ける。
	4月	第8代消防本部次長 出村 正雄就任する。
	4月	職員1名霞ヶ浦聖苑から転入
	4月	職員8名採用
	4月	救急救命士誕生(9名となる。)
	4月	メディカルコントロール協議会設立
	4月	消防職員意見発表関東大会(千葉市)において、消防本部 太田 衛消防士長 最優秀賞受賞。関東支部代表となる。
	6月	消防職員意見発表全国大会(広島市)へ関東支部代表として 消防本部 太田 衛消防士長出場。(入賞)
	6月	消防本部・鹿島北部消防署変電設備改修工事実施
	6月	消防本部空調設備・鹿島北部消防署給湯設備改修工事実施
	11月	救急救命士誕生(10名となる。)
	12月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、鹿島北部消防署旭出張所へ配置 する。
	12月	高規格救急自動車1台を更新し、鹿島北部消防署へ配置する。
平成16年	1月	消防緊急通信指令室増築工事完了
	2月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部 関 孝昭消防司令補優秀 賞受賞
	2月	2B型救急自動車1台を更新し、行方南部消防署に配置する。
	3月	防災航空隊へ派遣中の職員1名、派遣期間終了
	3月	職員1名退職
	3月	第9代消防長 茂木 英雄退職する。
	4月	第10代消防長 出村 正雄就任する。
	4月	第9代消防本部次長 真家 正隆就任する。
	4月	職員8名採用
	7月	職員1名退職
	11月	救急救命士1名誕生(11名となる)
平成17年	2月	日本損害保険協会から高規格救急車1台が寄贈され、行方北部消防署麻生出 張所に配置する。
	2月	消防職員意見発表茨城県大会において、行方南部消防署 高崎 英明消防士 長優秀賞受賞。
	3月	職員1名退職
	4月	高機能消防指令センター総合整備事業の運用業務開始

	4月	職員4名採用
	4月	組織機構の改革・消防本部警防課に指令室を置き、3課10係となる。 消防署に管理課、第1課、第2課を設け、これによって、3課7係となる。 出張所に庶務係を設け、3係となる。
	4月	職員1名退職
	5月	救急救命士1名誕生(12名となる)
	9月	職員1名退職
	11月	広報車1台を更新し、消防本部に配置する。
	12月	救急救命士1名誕生(13名となる)
	12月	職員1名退職
平成18年	1月	職員1名退職
	1月	組合名称を「鹿行広域事務組合」に変更する。
	2月	組合名称変更に伴い消防本部・消防署の名称を変更する。 ・「鹿行広域事務組合消防本部」 ・「鹿行広域事務組合鉾田消防署」 ・「鹿行広域事務組合潮来消防署」 ・「鹿行広域事務組合行方消防署」
	3月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、鉾田消防署大洋出張所へ配置する。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、行方消防署麻生出張所へ配置する。
	3月	指揮車1台を更新し、消防本部に配置する。
	3月	職員1名退職
	3月	第9代消防本部次長 真家 正隆退職する。
	4月	第10代消防長 出村 正雄鹿行広域事務局へ出向
	4月	第11代消防長 (事務取扱) 管理者 今泉 和就任する。
	4月	第10代消防本部次長 野村 喜義, 小室 守就任する。
	4月	職員1名霞ヶ浦聖苑へ出向
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ出向
	4月	職員2名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員2名養護老人ホーム鹿行潮来荘から転入
	4月	職員6名採用
	4月	庁舎周辺に落雷があり通信指令装置に被害が出る。
	4月	第11代消防長 (事務取扱) 管理者 今泉 和退任する。
	5月	第12代消防長 (事務取扱) 管理者 鬼沢 保平就任する。
	5月	救急救命士1名誕生(14名となる)
	9月	職員1名退職
	9月	元参事兼警防課長 宮本 二郎 瑞宝双光章を受章する。
	10月	職員1名退職
	12月	消防ポンプ自動車(CDⅡ)1台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
	12月	高規格救急車1台を更新し、鉾田消防署旭出張所へ配置する。
平成19年	1月	通信指令装置等の修繕工事が完了する。

	1月	銚田消防署のホース乾燥塔の補修工事が完了する。
	1月	元消防司令補 松信 正二瑞宝単光章を受章する。
	3月	潮来消防署の変電設備交換工事が完了する。
	3月	職員3名退職
	4月	職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	4月	職員1名審査会事務所から転入
	4月	職員5名採用
	5月	救急救命士が4名誕生（18名となる。）
	6月	広報車1台を消防本部から銚田消防署へ配置替えする。
	6月	広報車1台を更新し潮来消防署へ配置する。
	6月	広報車1台を更新し行方消防署へ配置する。
	6月	消防本部の広報車（防火号）を廃棄し、搬送連絡車を配置する。
	7月	行方消防署の給湯設備改修工事が完了する。
	12月	水槽付消防ポンプ自動車I-B型1台を麻生出張所に配置する。
	12月	麻生出張所に配置していた化学消防ポンプ自動車を廃棄する。
	12月	職員1名退職
	12月	潮来消防署の大規模改修工事が完了する。
平成20年	2月	潮来消防署の井戸ポンプ交換工事が完了する。
	3月	行方消防署の変電設備交換工事が完了する。
	3月	職員3名退職
	3月	第12代消防長（事務取扱）管理者 鬼沢 保平退任する。
	4月	第13代消防長 小室 守就任する。
	4月	職員2名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	4月	職員1名茨城県防災航空室へ派遣（平成22年度末までの予定）
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員7名採用
	5月	救急救命士が3名誕生（21名となる。）
	9月	職員1名退職
	10月	防火衣（上下型）を個人貸与する。
	12月	高規格救急車1台を更新し行方消防署へ配置する。
	12月	高規格救急車1台を更新し潮来消防署へ配置する。
	12月	職員1名退職
平成21年	3月	職員5名退職
	4月	職員9名採用
	5月	救急救命士が2名誕生（23名となる。）
	5月	事務連絡車を購入し消防本部に配置する。
	12月	消防本部浄化槽設備改良工事が完了する。
平成22年	2月	消防ポンプ自動車1台を更新し行方消防署に配置する。
	3月	職員8名が退職する。
	3月	第10代消防本部次長 野村 喜義退職する。

平成22年	4月	第11代消防本部次長 石津 啓司就任する。
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	4月	職員8名採用（採用者内に救急救命士1名）
	5月	救急救命士が2名誕生（26名となる。）
	10月	職員1名退職
	12月	職員1名退職
平成23年	1月	高規格救急車1台を更新し、行方消防署玉造出張所へ配置する。
	3月	一般社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車1台が寄贈され、鉾田消防署大洋出張所へ配置する。
	3月	第13代消防長 小室 守退職する。
	3月	職員3名退職（退職者内に救急救命士1名）
	4月	第14代消防長 石津 啓司就任する。
	4月	第12代消防本部次長 立原 和夫就任する。
	4月	職員6名採用（採用者内に救急救命士1名）
	4月	茨城県生活環境部消防防災課へ1名派遣する。
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	4月	週38.75時間勤務態勢実施する。
	4月	茨城県防災航空室派遣終了
	5月	救急救命士が2名誕生（28名となる。）
	7月	職員1名退職
	8月	職員1名退職
	12月	消防ポンプ自動車（CDⅡ）1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
平成24年	3月	第14代消防長 石津 啓司退職する。
	3月	第12代消防本部次長 立原 和夫退職する。
	3月	職員6名退職
	4月	第15代消防長 久保木 博就任する。
	4月	第13代消防本部次長 市村 茂夫就任する。
	4月	職員8名採用
	4月	元消防長 土子 貞男 瑞宝双光章を受章する。
	5月	救急救命士が2名誕生（30名となる。）
	8月	第41回全国消防救助技術大会ロープ応用登はんの部出場。
	8月	職員1名退職
	9月	防災功労者内閣総理大臣表彰を当消防本部が受賞する。
	10月	資機材搬送車1台を更新し、行方消防署へ配置する。
	12月	高規格救急車1台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
	12月	職員1名退職
平成25年	3月	第15代消防長 久保木 博退職する。

	3月	職員4名退職
	3月	茨城県生活環境部消防安全課への派遣終了
	4月	第16代消防長 市村 茂夫就任する。
	4月	第14代消防本部次長 千野根 保就任する。
	4月	職員定数214名となる。
	4月	職員11名採用
	4月	茨城県立消防学校へ1名講師派遣する。
	4月	救急救命士が4名誕生(34名となる。)
	4月	職員1名退職
	4月	元消防司令長 伊勢山 正瑞宝単光章を受章する。
	4月	県内22消防本部により、茨城県消防救急デジタル無線及び高機能消防共同指令センター運営協議会を設立する。
	12月	高規格救急車1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
平成26年	1月	広報車1台を更新し、行方消防署へ配置する。
	2月	消防ポンプ自動車1台を更新し、銚田消防署へ配置する。
	3月	消防長長官表彰(竿頭綬)を鹿行広域事務組合消防本部・行方市消防団が受章する。
	3月	職員15名退職
	3月	第16代消防長 市村 茂夫退職する。
	3月	第14代消防本部次長 千野根 保退職する。
	4月	第17代消防長 木内 清志就任する。
	4月	第15代消防本部次長 小見 幸男就任する。
	4月	職員11名採用
	4月	救急救命士が3名誕生(37名となる。)
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員2名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	5月	元消防長 茂木 英雄 瑞宝双光章を受章する。
	10月	茨城県生活環境部消防安全課へ1名派遣する。
	12月	高規格救急車1台を更新し、行方消防署麻生出張所へ配置する。
平成27年	3月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
	3月	職員10名退職
	3月	第17代消防長 木内 清志退職する。
	3月	茨城県立消防学校への講師派遣終了
	4月	第18代消防長 小見 幸男就任する。
	4月	第16代消防本部次長 飯塚 祥裕就任する。
	4月	職員12名採用
	4月	職員1名茨城県防災航空室へ派遣(平成29年度末までの予定)
	4月	消防署の組織に関する一部改正
		消防署の係を統合し、3課5係となる。
		出張所の係を統合し、2係となる。

平成28年	4月	救急救命士が5名誕生（42名となる。）
	4月	元消防本部次長 真家 正隆 瑞宝双光章を受章する。
	5月	いばらき消防指令センター行方基地局の無線アンテナ工事が完了する。
	6月	事務連絡車1台を更新し、消防本部に配置する。
	9月	関東・東北豪雨により消防広域応援隊として常総市に派遣する。
	11月	茨城県生活環境部消防安全課への派遣終了
	12月	消防本部・鉾田消防署庁舎の耐震補強工事が完了する。
	2月	消防ポンプ自動車1台を更新し、行方消防署へ配置する。
	2月	行方消防署の消防ポンプ自動車1台を潮来消防署へ配置換えする。
	2月	いばらき消防指令センターのデジタル無線運用開始となる。
	2月	いばらき消防指令センターへ職員3名派遣
	2月	消防本部の組織に関する規則の一部改正 消防本部警防課指令室の名称を変更し、消防本部警防課指揮情報室とする。 指令第一及び第二係を統合し指揮情報係を設け、3課9係となる。
	3月	行方消防署庁舎の防水改修工事が完了する。
	3月	職員9名退職（退職者内に救急救命士1名）
	3月	第18代消防長 小見 幸男退職する。
	4月	第19代消防長 飯塚 祥裕就任する。
	4月	第17代消防本部次長 長峰 義美就任する。
	4月	職員10名採用
	4月	救急救命士が2名誕生（43名となる。）
	6月	職員1名退職
9月	職員1名退職	
12月	指揮車1台を更新し、消防本部へ配置する。	
平成29年	1月	救助工作車を購入し、行方消防署へ配置する。
	2月	行方消防署第三車庫竣工
	3月	潮来消防署耐震補強及び改修工事が完了する。
	3月	行方消防署冷暖房設備改修工事が完了する。
	3月	職員16名退職（退職者内に救急救命士1名）
	3月	第19代消防長 飯塚 祥裕退職する。
	3月	第17代消防本部次長 長峰 義美退職する。
	4月	第20代消防長 門井 毅夫就任する。
	4月	第18代消防本部次長 堀米 政好就任する。
	4月	職員15名採用
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	4月	救急救命士が3名誕生（45名となる。）
	5月	元消防本部次長 立原 和夫 瑞宝双光章を受章する。
	8月	第46回全国消防救助技術大会ロープ応用登はんの部出場。
	9月	鉾田消防署消火栓設置工事が完了する。

	9月	行方消防署給水管改修工事が完了する。
平成30年	11月	元消防長 出村 正雄 瑞宝双光章を受章する。
	1月	高規格救急車1台を更新し、鉾田消防署旭出張所へ配置する。
	1月	行方消防署庁舎外壁修繕工事が完了する。
	2月	小型動力ポンプ付水槽車を購入し、鉾田消防署へ配置する。
	2月	消防ポンプ自動車1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
	3月	鉾田消防署冷暖房設備改修工事が完了する。
	3月	職員17名退職（退職者内に救急救命士2名）
	3月	第20代消防長 門井 毅夫退職する。
	3月	第18代消防本部次長 堀米 政好退職する。
	3月	茨城県防災航空室への派遣終了
	3月	いばらき消防指令センターへの派遣職員1名派遣終了
	4月	第21代消防長（事務取扱）行方市長 鈴木 周也就任する。
	4月	職員18名採用
	4月	茨城県立消防学校へ1名講師派遣（平成31年度末までの予定）
	4月	いばらき消防指令センターへ新たに職員1名派遣（合計3名派遣）
	平成31年	4月
4月		消防署の組織に関する一部改正 消防署の課及び係を統合し、2課4係となる。
4月		救急救命士2名誕生（45名となる。）
5月		元消防本部警防課長 岡里 寛士 瑞宝双光章を受章する。
7月		潮来消防署冷暖房設備改修工事が完了する。
7月		第47回消防救助技術大会関東地区指導会水上の部（基本泳法）出場。
11月		水難救助用救助艇1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
11月		元消防本部警防課参事 羽生 健司 瑞宝双光章を受章する。
12月		高規格救急車1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
12月		高規格救急車1台を更新し、行方消防署へ配置する。
12月		職員1名退職
2月		消防本部第二車庫前作業所新築工事が完了する。
3月		消防本部敷地アスファルト舗装補修工事が完了する。
3月		行方消防署敷地フェンス改修工事が完了する。
3月		指揮車1台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
3月		潮来消防署井戸給水管設備改修工事が完了する。
令和元年	4月	職員9名採用
	4月	救急救命士3名誕生（48名となる）
	4月	職員1名霞ヶ浦聖苑へ出向
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局から転入
	5月	新元号（令和）となる。
	5月	茨城県常総市坂手町廃材置場火災により消防広域応援隊として派遣する。
	7月	第48回消防救助技術大会関東地区指導会水上の部（基本泳法）出場。

	8月	麻生出張所冷暖房設備改修工事が完了する。
	10月	東日本台風第19号における那珂川、久慈川堤防決壊により消防広域応援隊として常陸大宮市に派遣
	10月	職員1名退職
	11月	水上バイク（さくら）を購入し、銚田消防署へ配置する。
	12月	高規格救急車1台を更新し、銚田消防署へ配置する。
	12月	職員2名退職
令和2年	2月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、銚田消防署へ配置する。
	3月	指揮車1台を更新し、潮来消防署へ配置する。
	3月	指揮車1台を更新し、行方消防署へ配置する。
	3月	消防本部及び銚田消防署のトイレ配管改修工事が完了する。
	3月	いばらき消防指令センターへの派遣職員2名派遣終了
	3月	第21代消防長（事務取扱）行方市長 鈴木 周也退任する。
	4月	第22代消防長（事務取扱）潮来市長 原 浩道就任する。
	4月	第19代消防本部次長 飯島 敏彦就任する。
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	4月	消防署に消防第2課査察指導係を設け、これによって2課5係となる。
	4月	職員6名採用
	4月	いばらき消防指令センターへ新たに職員2名派遣
	4月	救急救命士3名誕生（51名となる）
	9月	消防本部及び銚田消防署防水改修工事が完了する。
	10月	職員1名退職
令和3年	2月	行方消防署浄化槽改修工事が完了する。
	3月	高規格救急自動車1台を更新し、銚田消防署大洋出張所へ配置する。
	3月	化学消防ポンプ自動車1台を更新し、行方消防署玉造出張所へ配置する。
	3月	職員1名退職
	3月	行方消防署玉造出張所冷暖房設備改修工事が完了する。
	3月	銚田消防署旭出張所ピット内配管等改修工事が完了する。
	3月	消防本部冷暖房設備改修工事が完了する。
	4月	職員3名採用
	4月	救急救命士3名誕生（54名となる）
	4月	職員1名茨城県防災航空室へ派遣（令和5年度末までの予定）
	5月	職員1名退職
	7月	静岡県熱海市土砂災害により緊急消防援助隊として熱海市に派遣
	11月	元消防長 小室 守 瑞宝小綬章を受章する。
令和4年	3月	タンク車1台を更新し、銚田消防署旭出張所へ配置する。
	3月	行方消防署アスベスト撤去及び改修工事が完了する。
	3月	第22代消防長（事務取扱）潮来市長 原 浩道退任する。
	4月	第23代消防長（事務取扱）銚田市長 岸田 一夫就任する。
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ転出

令和5年	4月	職員2名採用	
	4月	救急救命士5名誕生（59名となる）	
	4月	元副参事兼出張所長 藤崎 五郎 瑞宝単光章を受章する。	
	5月	銚田消防署排水管改修工事が完了する。	
	8月	職員1名退職	
	11月	元消防長 石津 啓司 瑞宝小綬章を受章する。	
	11月	元消防長 久保木 博 瑞宝小綬章を受章する。	
	11月	高規格救急自動車1台を更新し、銚田消防署へ配置する。	
	12月	銚田消防署浴室改修工事が完了する。	
	1月	広報車2台を更新し、銚田消防署大洋出張所及び行方消防署玉造出張所へ配備する。	
	3月	職員4名退職 いばらき消防指令センターへの派遣職員1名派遣終了	
	4月	職員5名採用	
	4月	職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向	
	4月	いばらき消防指令センターへ新たに職員1名派遣	
	4月	救急救命士2名誕生（61名となる）	
	令和6年	7月	第51回消防救助技術大会関東地区指導会水上の部（基本泳法）出場。
		8月	第51回全国消防救助技術大会水上の部（基本泳法）出場。
8月		第51回全国消防救助技術大会ほふく救助の部出場。	
8月		職員1名退職	
11月		元行方消防署長 菅井 洋二 瑞宝双光章を受章する。	
12月		消防本部冷暖房設備改修工事が完了する。	
1月		広報車2台を更新し、銚田消防署旭出張所及び行方消防署麻生出張所へ配置する。	
1月		銚田消防署旭出張所の広報車1台及び行方消防署麻生出張所の広報車1台を消防本部へ配置換えする。	
2月		高規格救急車を1台更新し、行方消防署玉造出張所へ配置する。	
2月		行方消防署玉造出張所の高規格救急車1台を行方消防署へ配置換えする。	
2月		職員2名退職	
3月		職員4名退職	
3月		茨城県防災航空室への派遣職員1名派遣終了	
3月		いばらき消防指令センターへの派遣職員1名派遣終了	
3月		第23代消防長（事務取扱） 銚田市長 岸田 一夫退任する。	
4月		第24代消防長 飯島 敏彦就任する。	
4月		第20代消防本部次長 宮内 信義就任する。	
4月	職員7名採用		
4月	救急救命士2名誕生（62名となる）		
4月	いばらき消防指令センターへ新たに職員1名派遣（合計3名派遣）		
4月	茨城県立消防学校へ1名講師派遣（令和7年度末までの予定）		

	8月	職員1名退職
	11月	元消防長 木内 清志 瑞宝双光章を受章する。
	11月	元次長 長峰 義美 瑞宝双光章を受賞する。
令和7年	1月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部警防課 鬼澤 辰郎消防副 士長最優秀賞受賞。
	2月～3月	岩手県大船渡市林野火災により緊急消防援助隊として大船渡市に派遣
	3月	職員2名退職
	4月	職員4名採用
	4月	救急救命士2名誕生（64名となる）
	4月	職員2名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	第48回関東支部消防職員意見発表会に茨城県代表として消防本部警防課 鬼澤 辰郎消防士長が出席。
	7月	第53回消防救助技術大会関東地区指導会陸上の部（引揚救助の部）出席。
	7月	第53回消防救助技術大会関東地区指導会水上の部（溺者搬送の部）出席。